

令和5年度 第2回 京丹波町子ども・子育て審議会 議事概要

日時：令和6年1月31日（水） 午後1時30分～午後3時30分
場所：京丹波町役場2階 大会議室
出席委員：17名
欠席委員：1名

1 会長あいさつ

会 長：新たな年を迎え、本年も委員の皆さんにはよろしくお願ひしたい。新年早々に能登半島で大きな地震があった。被災者や亡くなられた方、ご家族のことを思うと心が痛む。一日も早い復興と、日常が戻ることを心から祈っている。以前の職場で、阪神淡路大震災で被災した子どもを受け持つことがあった。本当に守ってほしい時に、守ってくれる大人と生き別れた子どもたちだった。大変な恐怖と寂しさ、不安、長い避難生活から逃れたくて反社会的、非社会的な行動を起こしてしまい、私のもとにやってきた。その子どもたちと生活をする中で、「大丈夫大丈夫。何とかなる。絶対にあきらめたらあかんよ、絶対次はいいことがいっぱいあるからね」と口癖のように言い続けた。なるべく不安を取り除き、温かく温もりのある生活をとと思い、寄り添い続けた。その子どもたちはもう40歳を過ぎて、父や母として力強く自分の道を歩んでいる。子どもたちは、切なくて大変な時こそ、ちょっと声をかけてほしい、ちょっと見守ってほしい、そっと寄り添ってほしい、そんなことをしてくれる大人を求めていると思う。

京丹波町でも、個人や団体、事業者や行政が一丸となって、子どもたちの見守りや育みができたらいいと思う。そのためにはまず、私たち大人が心身ともに健康で、元気で明るく子育て、子育てができるような環境を整えてきたいと思うので、協力をお願いしたい。今年も元気で頑張っていたいただきたい。

2 報告事項

- (1) アンケート調査票完成版について
- (2) アンケート調査の現時点の進捗状況について

【事務局による説明】

会 長：アンケートが届いた方もいらっしゃると思う。回答にご協力いただけるとありがたい。少しでも回収率が上がるとうれしいので、できるだけ多くの方にご回答いただきたい。

3 審議事項

子ども・子育て支援事業計画の令和4年度進捗状況の評価等について

(1) 令和4年度事業について

(2) 第5期審議会からの引継ぎ事項について

【事務局による説明】

【質疑応答】

副会長：乳児相談の参加率や思春期相談の実績がないこと、子ども相談窓口の利用がないことが気になった。こういった政策が隅々にいきわたり、利用したい人、相談したいという人が、本音が話せるような相談の場所にしていかないといけないと感じている。

健診の受診率やファーストブックのような全数対象となる取組について、100%となっていない箇所があることも気になっている。受けていない方は、どのタイミングで健診を受けて、ファーストブックを受け取られたのか。

オブザーバー：乳幼児健診については、保護者やお子さんの体調等の関係で、当日来られなかった方もいらっしゃる、後日訪問などに切り替えて確認を行っている。集計をとったタイミングでは100%ではなかったのかもしれない。

相談事業についても、電話相談を受けた際にも、十分に応えきれないケースもあり、しっかり対応できる相談体制に向けて、体制整備や周知を頑張っていきたいと思っている。

委員：外国籍等への子どもたちへの支援について、特に京丹波町では言葉の面だけでなく、道徳の価値観や家庭・歴史・社会の違いも含めた支援があるので、今後とも重視して引き続き支援体制を整えていただきたい。
今後、ともに外国人の夫婦が、京丹波町で子育てする事例も出てくると思う。文化の違う場所では免許を取ることもすら敷居が高い。京丹波町で車なしでどうやって子育てをするのだろうと考えると心配になる。

委員：第5期審議会からの引継ぎ事項の一つに、『子育て施策が充実したまち』、『子育てにやさしいまち』と全町民が認知できること』とある。京丹波町役場は、国道9号線を車で走っているととても目立つ。引っ越しを考えている人が役場を見て素敵だと思い、移住の候補に挙がるかもしれない。通った人に京丹波町は子育てにやさしいまちだと認識してもらえよう、庁舎に似合うおしゃれな看板やのぼりがあると、アピールできると思う。
去年の12月、役場内のこだちで、子育て団体のPRコーナーを作ってもらい、クリスマス会の案内を掲示した。その際に、いろいろな子育て団体の活動も知ることができた。子育てのサービスや団体の情報を得られるコーナーがあると、情報を求めている人が探しやすい。ここに行けば子育ての情報がある、という場所が何か所かあると、情報の入手も発信もしやすくなる。

事務局：第5期審議会からの引継ぎ事項「子育て支援に関する情報発信、町民への周知の方法を充実させること」にもつながる意見をいただいた。以前よりPRについては、町としてもしっかりと行っていかないといけないと思っている。本町で実施しているたくさんの子育て支援を周知していかないといけない。いただいた意見を参考に取り組んでいきたい。

委員：町では、ファーストブック、セカンドブック事業を実施しているが、中学1年生を対象としたサードブック事業があるといいと思う。朝活で読書をする中学校もあり、個人で本を選んで読んでいます。中学生になって突然、自分で選んで本を読みなさい、と言われたら何を読めばいいのか悩む子どもも多いと思う。リストアップしてもらえたら、読書のきっかけになると思う。

委員：セカンドブック事業は、子どもにとっては自分で選べるということが嬉しかったようで、自分で選んだ本を、自分だけのものとして他の本よりも大切に扱っている。定期的にあつたらいいと思う。

会長：こども大綱のなかにも子供の意見表明について述べられている。子どもたちが意見や思いを伝えるためにも、たくさん本を読んで、言葉や文字を活用できる子どもになってほしい。移動図書館は、子どもたちも楽しみにしている。様々なきっかけで、子どもたちが本に触れられるようになるといいと思う。

委員：引継ぎ事項の「子どもが安心して暮らせる環境整備を図ること」に関連して、自身の子どもの学校では「10年後の京丹波町の未来を考える」という取組を全体で行っている。昨年も商業施設で、町の存続に向けて必要な取組を尋ねるアンケートをしていた。

将来について調べた子供が「10年後には京丹波町はなくなる。子どもが減っていくと、新しい人が来なくなる。それではいけないので、自分たちが京丹波町のこれからを考えていかないといけない。」と話していた。子ども目線で子どもが安心して暮らせる町を考える取組は、町全体に波及していけばいいと思う。大人との連携も考えながら、子どもが考えていることを受け止めて、周知させて町全体で取り組んでいくことが大事だと思う。

委員：子育て支援センターの利用人数に関して、令和4年度は491人の利用があったと書いてある。この数字は1人の方が10回利用されると10人と数えられていると思う。自分自身もそうであったが、毎週行くような時期もあり、1人の方が何回も利用している実態がある。実際に利用した人数は割合として低いのではないか。行ける人・行けない人がどれくらいいるかという数値が見えるようにするのも利用促進に向けて大事なことかと思う。利用人数の数字に惑わされず、行けない人も含めて利用・交流できるように工夫できたらいい。

4 グループワーク（テーマ：子どものためにできること）

会長：グループワークに移るにあたって、副会長の方からテーマ設定に関して一言いただければと思う。

副会長：子ども・子育て審議会の委員として子どもたちに何ができるか、そしてそれぞれの団体等、務めている仕事の中で子どもたちに何ができるか、ここに焦点を当てることを大事にしようという話を事前の打ち合わせで話した。先ほども皆さんの立場から、いろいろな案を発言していただいた。今置かれている立場から子どもたちにこれをしようまとめられるように、意見交流していければと思う。

【事務局による説明】

【各グループによるグループワーク（約45分）を実施。各グループが議論内容を発表】

（Aグループ）

医療について、利用できる日は少なく、医師だけでなく、気軽に相談に行けるドラッグストアなどでの薬剤師も不足している。また、学校のPTAでは、人数が少なく、役を引き受けてくれる人もおらず、資金集めに苦労しているという話が出た。地域の子ども会も参加者がなく、子どもがいるのに消滅するという現状がある。

先日、不登校児が全国で30万人という報道があった。京丹波町でも同様に、学校現場・保護者ともに悩んでおられる。しかし、保護者と学校の先生がそういった課題に対し、本音で話し合い向き合っているだろうか、という意見もあった。先生は気を遣って遠慮して対応し、保護者もなかなか信頼して任せることができない。直に繋がっていないような関係性になってしまっているのではないか。多様な子どもがいることは当たり前のことなので、そういった状況が日常にあることは大事な事だと思う。トラブルを起こさないようにするのではなく、問題が起こった時に子どもたち自身が子どもたちの目線で解決していくのを見守ることも大事。保護者の皆さんも日々忙しいとは思いますが、子どもと過ごす時間や一緒に体験することも大切にしてほしいという意見もあった。

（Bグループ）

情報の共有や周知に関する部分に特化した意見が多かった。情報が伝わりにくい人にも伝えられるような世話役さんのような存在が大事だという話が出た。また、保護者自身が必要な情報を取りに行くこと、自分ごととして受け止めて自分で動いていくことも大事で、そういった行動が「子育てにやさしいまち」につながっていくのではないかと、という話もあった。

小規模校について、地域では小規模でも学校を継続してほしいという思いを持っておられるが、保護者の方からは小規模校であるために仲間づくり

が難しく、部活動の選択肢も少なくなってしまう。子どもの将来を考えると…、という意見もある。意見も聞いて進めていけるまちづくりをしていくことも重要であるという意見もあった。

関連して子どもや子育てに特化した情報がアプリを開けば手に入るような、京丹波町の子育て版の情報アプリがあるといいという意見が出た。

(Cグループ)

先日の話であるが、須知高校生がいち早く、地震被害への義援金集めを実施し、それが小中学校にも広がった。子ども達の活動に対して、大人がどのように応援していけるかということが大事だという話をした。また、コロナによる自粛により、子どもたちの体験や交流の機会が減ってしまっている。子どもたちにとっても大切な地域との繋がり、地域の祭りを体験することなどを、改めて考えていくことが大事だと思うし、積極的に実施していかないと無くなってしまう可能性もある。

子どもたちにもっと、京丹波町には「良いもの」が多いと感じてもらうための発信を行い、伝えていくことが必要だと思う。無料で利用できる自然運動公園や、京丹波マルシェなどで販売されている商品は京都市内のデパートにおいてあるものよりもっといいものだったり、そういった良さをしっかり確認し、京丹波町はこんなにいい町ということ伝えていくことで、転出して帰ってくるきっかけとなるので、子どものうちに伝えておくことが大切という意見があがった。

(Dグループ)

不登校に関する話が出た。少人数だった小学校から中学校になると大人数との関わりが生まれ、新しい環境へ入っていく際の不安から、不登校となってしまう状況がある。不登校児の居場所づくりがやはり必要だという意見があった。子どもたちの居場所づくりは町全体で考えていく必要がある。学校へ行くことがいいという時代から、学校へ行かなくてもそれぞれの場所で自分の力を育てることを考えていく必要があると思う。

先ほどの審議であがったサードブックに関して、図書館が遠く通うのが難しい地域や、子どもたちが図書館に行く手段がない地域もある。移動図書館の更なる活用や他の方法も考えていけるといいと思うし、読書活動が活発に行われるといい。働き手となる世代が子育て世代でもある。負担は大きいだろう。大人もゆとりを持って子どもと一緒に本を読んでほっこりできる時間・機会があれば、子どもも本好きになれるのではないかな。

地域連携に関連して、「人づくりはまちづくり」と言われるように地域の環境づくりも子育てには大事なことという話もあがった。学校では地域の方に家庭科のミシンの先生になってもらったり、読み聞かせをしてもらった

り、登下校の見守りをしてもらったり、地域の力を含めて子育てしていく環境にしたいと思う。学校の地域を超えてゲストティーチャーとして呼んだりするような、町全体で幅広い連携もしていけるといい。

また、環境に関連する部分で、多様な生活スタイルを叶えられるようになれば、子どもたちも帰ってきたい町になっていけるのではないかな。

会 長: たくさんのご意見をいただいた。各グループで活発に議論いただき本当にありがたい。読書に関する意見もあったが、子どもたちが自分で自己発信していけるような力を持てるような環境づくりを進めていくことも必要だと思う。具体的な案も出していただいたので、取組や今後の議論等に反映していければと思う。

委 員: 議論が大変深まり、前に進んだと思う。お互いに親しみが持て、人となり分かり、だんだん話しやすくなる。今後の会議でもこのような形でやっていけるといいと思う。

5 事務連絡（次回予定）

【第3回審議会日時】令和6年3月1日（金）午後1時15分～

事務局: 現在子育て世代のインタビュー番組を作成することを検討している。子育て家庭に出演いただき、子どもがどのような大人になってほしいかやどのように育てほしいか、親自身はどうありたいなど、未来のことを考えていただき、そのためには今何ができるかを宣言してもらおう、という番組を考えている。番組に出演いただける方がいらっしゃったら、町の方へご一報いただけるとありがたい。

6 閉会あいさつ（藤田副会長）

副会長: アンケートの進捗や令和4年度の実績報告、今後に関わることについて事務局から説明があった。説明に対して委員の皆さんから具体的な意見を出していただいた。資料を自分のものとしてとらえ、読み込んでこられたことが伝わってきた。グループワークでは、自身のグループでも子育て中のお母さんからの熱い思いや具体的な取組を語っていただいて、大変励みや勉強になった。こども大綱ではこどもまんなか社会という言葉が何回も出てくる。心に残ったのが、出産から子育てまで切れ目のない支援を続けていくということ、必要な人に必要な情報を伝えるということ。この会議で皆さんが話されているご意見だと思う。行政にこうしてほしいとアイデアを伝えることも大事だし、それだけでなく自分たちで発信していこうという意見も出た。皆さんも得られた情報を今の立場で、また審議会の委員として、様々な場所で発信を続けていただきたい。一人でも多くの方に支援が届くよう、よろしくお願ひしたい。